

留学生による学校支援－学校における国際交流及び外国籍児童に対する言語支援－

IPU 留学生の地域貢献を推進する会

活動の目的

本活動の目的は、大学に在籍する留学生と地域の学校現場をつなぎ、学校現場における国際理解教育と多文化共生の促進に資することである。近年の学校現場では、体験に基づく国際理解教育が必要とされている他、日本語指導が必要な児童への対応を求められることも少なくない。他方、自らが異文化環境に身を置き、母語と日本語、そして母文化と日本文化を知る留学生は、国際理解や多文化共生における貴重な人的資源であるといえる。両者をつなぐことにより、留学生の知識や能力を活かして、学校現場の国際理解や多文化共生を促進できると考えられる。

活動の内容及び経過

国際交流活動は、赤磐市立山陽小学校6年生（11月8日と11月29日の2回）、赤磐市立山陽北小学校3年生（1月17日）、岡山市立富山小学校の部活動「ワールドクラブ」（11月17日）、岡山市立幡多小学校3年生（11月27日、1月15日の2回）を対象に計6回実施した。いずれの学校も昨年度以前に国際交流会を実施しており、今年度も学校側から依頼を受けて、IPU 環太平洋大学の留学生を学校に引率して行った。参加留学生の人数は、富山小学校は3名、それ以外はそれぞれ30名程度であった。国際交流会では、少人数のグループに分かれて、留学生が自分の国の文化を紹介した他、児童から日本の遊びや「うらじゃ」を覚えてもらうなど、双方向の交流が行われた。

また、4月から1月末にかけて、岡山市立御津小学校の依頼を受け、IPU 環太平洋大学のベトナム人留学生が同校に在籍するベトナム籍児童計4名に対して、通訳を含む学習支援を行った。上半期4名、下半期4名の留学生がそれぞれ週1日同校に通い、対象児童に付き添い、日本語とベトナム語の通訳や、言葉の問題で遅れがちな学習の支援をした。

活動の成果・効果

1996年の中央教育審議会答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』では、国際理解教育を行う際に、知識理解にとどまらず、体験学習や課題学習を通じて、実践的な態度や資質を育成することの重要性が述べられている。本活動における国際交流は、少人数のグループに分かれて、児童一人一人が留学生と手の届く距離に座り、お互いの顔を間近に見ながら、話したり、何かを教え合ったりする、という形式で進められた。これは、まさに体験的な学習であり、国際理解の実践者を育成するための重要な第一歩だと考えられる。

また、ベトナム人留学生によるベトナム人児童への学習



岡山市立富山小学校「ワールドクラブ」での交流

支援については、留学生が自身の言語能力を活かして、対象児童と教員、または対象児童と他の児童、さらには対象児童の保護者と学校をつなぐ役割を果たしただけでなく、自身の経験をもとに、同国人として、対象児童に学習や生活面の助言を行った。

以上の活動は、国際理解及び多文化共生の貴重な人的資源である留学生と、国際理解及び多文化共生のニーズを持つ学校現場をつなぐことによって実現できた。こうした活動は、留学生はもちろんのこと、教育委員会や各学校の協力抜きには行うことはできなかった。ご協力くださった方々に心より感謝したい。

今後の課題と問題点

今後の課題として、活動の裾野を広げる点を挙げる。今年度は、昨年度以前からつながりのある学校での活動が主たるものであった。今後は、より多くの学校で活動を展開することを目指す。

- 代表者：長野真澄 ●所在地：岡山市東区瀬戸町観音寺
- TEL：086-908-0200 ●E-MAIL：m.nagano@ipu-japan.ac.jp
- URL：http://www.ipu-japan.ac.jp/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：3名